

Q 三条市へ無償で誘客する可能性について。

A コロナが明けたら実現する。

三条高校「理数科クラス」について

Q 理数系クラスを「理数科クラス」「サイエンスコース」「メディカルコース」への進展は。

A 近隣市町と大同団結して推し進めていく。



県立三条高等学校

急激な電力料金の値上げによる市内企業への影響等について

Q 最近のロシアによるウクライナ侵攻などの国際情勢の不安定化

Q 中学生への平和学習講座の講演の様子をYouTubeに上げ、市民に広げてはどうか。

A 講師、関係者の理解理解が得られれば周知したい。



三条地域の医療の縮小・病床削減市民の命と健康を守る立場で計画の見直しを

Q 基幹病院開設後、済生会病院は内科系の医師のみ常勤。手術もしないなど機能が変わる。市民には説明がない。周知すべきだ。

A 県に要請した。早々に実施すると回答している。

Q 国のガイドラインは、病床削減ありきではなく、実情を踏まえ議論必要と方向が変わった。見直すべきではないか。

A 病床削減が目的ではない。医療ニーズの変化や医師の働き方改革等持続可能な質の高い医療体制を目指し国の方向と同じ。

により、我が国の発電コストも上昇し、市民や企業が負担する電気料金の値上げに対して対応しきれない現状だ。

電気料金に対する経済支援はまだまだ議論されておらず、市独自の対策、もしくは国に対しての支援の要望の考えはあるのか。

A このような状況は、日本国内の産業界全体で生じており、事業者への支援については、三条市独自では難しく、既に全国市長会から国に対して機動的かつ万全な措置を講じることの要望を行っている。

ゲートキーパーの普及と人材養成等について

Q 命の番人ともいわれているゲートキーパーは、悩んでいる人に気付き、声をかけ、話を聞いて必要な支援につなぐ等、適切な対応を図ることで自殺の減少につなげていくといわれている。今までの市としての取り組みと課題、目標に向けた対策はどうか。

A 平成24年度から養成研修を実施しており、令和3年度までで延べ1400人が受講している。

近年の課題としては若年層の自殺割合の増加が挙げられ、対策としては教職員に対する研修に特に力を入れている。

新潟県市町村別医療施設従事医師数の推移 単位:人

医療圏	2010年	2018年	2020年	2020年-2010年
下越	318	331	346	28
新潟	2,147	2,272	2,324	177
県央	301	287	278	-23
中越	736	782	780	44
魚沼	208	223	228	20
上越	415	466	454	39
佐渡	82	83	87	5
新潟県	4,207	4,444	4,497	290

厚労省:人口10万対医師数は、総務省統計局の人口推計(各年10月1日現在)総人口より算出
県内市区町村別医師数は、厚労省「医師歯科医師薬剤師調査」による 各年12月31日現在

急激な物価高、命と暮らしを守る対策を

Q 物価高な中、学校・保育所、福祉施設等の給食の負担軽減を図ってはどうか。

A 学校給食は、値上げが必要なほど影響ない。施設も企業努力で対応できていると認識。

空き家放置が増え続ける原因と対策について

Q 空き家放置が増え続ける原因は固定資産税にある。更地にする

スクールバスの運行について

Q 子どもに対する悲惨な事件は、通学時に起こり得ることが多く、距離の長短ではない。また、毎年4月にならないと乗れるかどうか分からない地区もあると聞く。規則や予算もあると思うが、子どもたちが無事に通学できるように、また保護者の方が納得できるように市を挙げて検討願いたい。

A スクールバス運行規則に基づいており、利用したい人全員を無料で乗車させることは、運行の趣旨や財政負担が大きいので考えていない。今後も道路事情や生徒の人数など必要に応じて検討したい。



栄地域を運行するスクールバス

会計年度任用職員の待遇改善について

Q さらになる待遇改善、人材の確保に努めてはどうか。また、正職員と

翌年から税金が4.2倍に跳ね上がる。今まで5万円が21万円になる。特定空家解体補助制度で限度額50万円頂いても、3から4年で税金としてお返しする落語の笑話に思える。空き家のままにしておく方が得だと考えるのは、至極当たり前。家屋を解体し更地にしても10年間はそのままの税にしてはどうか。土地の買い手がすぐに見つからない理由である。空き家放置は三条市のイメージダウンになる。早急にこの案を実施してはどうか。

A 県内では見附市が危険回避のため、市の求めに応じて解体した場合に減免措置を2年間実施している。固定資産税の特例について導入している自治体もあるため、デメリットを含めて、総合的に研究していきたい。

いい湯らていの温泉かけ流しの提案

Q いい湯らていは、入浴しても温泉に入った気がしない。ただのお湯にしか感じられない。新井戸を掘って源泉かけ流しにしてはどうか。

A 湯は循環式で清潔に保っており、装置の業者によれば、泉質が損なわれることはない。掘削費用が高額であり、湯量も確保されているため、新しい井戸の掘削は考えていない。

して採用する方法を検討してはどうか。

A 国や県の勧告にのっとり勤務条件を定めている。処遇改善については、この4月より産前産後休暇を有給とした。受験資格を満たせば正職員を目指せると考える。

今後の農業対策について

Q 物の値段は上がるが米価は下がる一方である。稲作農家の規模を問わず対策願いたい。

A 国が大枠を策定し地方自治体が地域性を加味している。市独自では、下田産のブランド化の推進等に取り組んでいる。



「平和への一歩は知ることから」市民への啓発について

Q SDGs目標16「平和と公正をすべての人に」環境人権の啓発を進める学習の機会を持つてはどうか。

A 講師公募講座で市民ゼミを今年度から全公民館で開催予定。平和人権について、講座の応募があったら開催したい。

下田地域の公共建物の維持管理について

Q 下田総合体育館の老朽化が進んでいる。大規模改修が必要ではないか。これまでも質問してきたが、「予算の範囲内で必要な修繕を行う」という答弁の繰り返しだ。この体育館は、三条市民だけが使用するわけではない、各種大会で市外の人も利用する。劣化がひどく大変恥ずかしい状態だ。大規模改修が必要ではないか。

A 老朽化は進んでいるが、そこに莫大な費用と時間をかけて大規模改修は行わない。建築基準法に基づく法定点検を行うとともに、営繕要望には現地確認を行い、緊急性や安全性を見極めた上で優先順位をつけ、予算の範囲内で必要な修繕を行う。



危険な下田体育館2階ギャラリーの手すり



穴だらけな下田体育館2階ギャラリーの壁